

裔孫

離離黃倉庚也鳴則蠶生以爲離別之義者假借也曲直瀨本夾注外孫之子也五字按姉妹之子爲出出之子爲離孫也以離孫爲外孫之子者誤蓋是後人所增非源君舊文

〔伊呂波字類抄末人倫〕離孫 マコヒコ

〔同人倫〕離孫 ムマコメヒ ムマコナヒト云女ハムマコメヒト云

〔釋親考〕謂出之子爲離孫

フイマコメヒト

釋名遠離己也

〔伊呂波字類抄人倫〕孫云子孫也 〔同人倫〕襲ハツコ

〔古史徵一夏開題記〕新撰姓氏錄の論

兒と云るは古は生子をも裔子をも廣く古といひ生親をも先祖をも廣く於夜と云りしかば、朴略に兒といひ傳けむを其隨に記し傳たる物なるべし。○註なほ姓氏錄を讀まむ人の爲に記し出まほしき説は甚々多有ども大抵は漏しつ其は一節ありて故實を明むるに要旨とある氏々は撫ひ採りて此成文に神々の御名の出たる處また人々の名の出たる處々に擧つれば己が思ひ得たる事の限は其處の傳に委く註せるを見るべし、

〔鹽尻五十二〕先祖子孫號名 ○中

己 子有伯子炊子 孫孫者續也 曾孫曾ハ猶重

玄孫玄懸也與高祖相懸也 來孫言者往來ノ親 景孫只弟ハ後也又貫也情 仍孫

仍重也又同以禮仍者耳 雲孫謂遠去如浮雲 耳孫言共云高祖甚遠祖可聞也是非一代言雲孫以下 後胤後代子孫也百世稱之

〔日本書紀二代〕一書曰略 ○中 兄命火酢芹 乃伏罪曰吾已過矣從今以往吾子孫八十連屬恒當爲汝俵人

〔日本書紀十四略〕十四年四月詔根使主自今以後子子孫八十聯綿莫預群臣之例